

国際ロータリークラブ第2540地区 2024～2025年度



# 大曲南ロータリークラブ週報



事務所及び書類の宛先

〒014-0015 大仙市大曲白金町8-17 大曲エンパイヤホテル内

会長：石川浩範 幹事：佐々木卓

第2852回例会 2024年12月19日(木) 18:00～ (於：大曲エンパイヤホテル)

【今年最後の夜間例会】



大曲エンパイヤHの皆さま、  
今年も大変お世話になりました♡

今宵も美味しく・楽しい  
「夜間例会」



🔔 【4つのテスト】勉会員

🤝 【ゲスト】 佐々木徹 様 ((有)佐々木鉄工所 代表・農業)  
挽野利恵 様 (飛び入り参加・挽野実之会員奥さま)

👤 【会長の時間】浩範会長

- ・今年もあと残すこと2週間ほど、思えば元日の能登半島地震・2日には日航機と海保機の衝突事故と大変なスタート、今年は過去に経験したことの多い多くの重大な困難に直面しました。一方ではパリ・オリンピック&パラリンピックの日本人活躍や数々のドラマ・大谷翔平の活躍とスポーツや文学・芸術に助けられた1年でもありました。
- ・またRC活動では皆さまの協力によって充実した活動・特に当地区担当の地区大会は皆さまの尽力で盛り上がったと感謝しております。
- ・来年、皆さまにとって幸多い年でありますように、またRC活動も盛り上がっていきましょう！

📎 【幹事報告】卓幹事

- ①「1月例会のご案内」配布→1/16(木)「当クラブの新年家族会」開催で1/9その打合せを。
- ②1/22(水)「大曲中央RC・新年家族会in川端」=利昭会員・浩範参加。
- ③1/14(火)「大曲RC・新年家族会」  
(圭司? =浩範依頼・あと一人=了? →秀樹? →卓也?)



👥 【出席】朋浩会員  
「会員14名、出席対象会員12名、出席9名の予定です」

😊 【ニコニコ】百合子会員

- ・金賞「今期RC活動も半年経ちました、ありがとうございました。後半もヨロシクお願いします。」(浩範)
- ・銅賞「今年最後の夜例会、今年も大変お世話になりました。来る年も会員皆さんにとって素晴らしいものになることを祈念して！」(卓也会員)
- ・銅賞『2024-25年度前期は「花火アム見学」「3RC合同夜間例会」「大曲仙北RC主催メロン祭り夜間例会」「クリスマスリース作り」等々、楽しい例会がたくさんありました♡」(百合子会員)





【ご報告】卓也会員

「昨晚、実之先輩と私で『ソロプチミスト大曲』のクリスマス会に参加しました。ハンドベルをイキナリやらされてまして絶好調に盛り上げてきました！！」



【乾杯】朋浩会

「皆さま好きなビールもしくは、たまには違うところの冷酒ということで齋彌酒造店『雪の茅舎』大吟醸をご用意しました。もちろん熱燗☺は『秀よし』さんを用意しましたのでご安心を。それではお酒を呑めない私ですが、（目のため）血流をよくするために1杯ぐらいは呑みなさいと明美・百合子両先生に言われましたので、呑みたいと思います。今年最後の例会＝”忘年会”と

言っているのでは、楽しく呑みましょう。 今日、ここに居る人だけの幸せを祈念して、乾杯 🍷 」



🚚 【差入れ】

- ・キーウィ沢山（リンゴ同封で熟してネ）=佐々木徹様
- ・日本酒「雪の茅舎」=朋浩会員
- ・エゴと納豆たくさん=了会員



今日エンパイヤH泊まるんだ、一緒に寝る？踊る？



【乾杯2回目】実之会員

「佐々木徹さま、このままお父様が  
当クラブ会員へ是非！気兼ねなく！  
地区大会、辻さんはじめ皆さまの  
大活躍で無事終えてありがとう！  
当クラブ真骨頂、夜の例会・呑み会を！」

【佐々木徹さまのお話】

- ・キーウィ、リンゴと入れて追熟を、  
子供と一緒に、育てねば。春まで！
- ・支援学校→受粉&水・山のミズを。



↓ 年忘れ、顔の大きさ比べ →



【中締め】了会員

- ・佐々木徹先輩、本日はありがとうございました。仙北ライオンズはお腹が痛いということで退会いただき、是非当クラブへ。
- ・色々な病気が流行っていますが、皆さまは益々のご健勝で、良き年を迎えられますように！ 🙌 🙌



# 住み慣れた場所で最期まで

## 県内初の身元保証相談士に小松さん

有限会社ふあいん専務取締役の小松利也さん(44)がこのほど、高齢者の入院や施設入所時の身元保証支援を行う「身元保証相談士」の資格を取得した。秋田県で同資格を取得したのは小松さんが初めて。「元気なうちから人生の終わりを見すえた準備をすることで、誰もが住み慣れた場所で安心して暮らせるようにしたい」と語る。

身元保証相談士とは、身元保証に関する専門知識を持ち、高齢者の入院・入所時の契約支援から緊急時の対応、死亡後の手続きまでをサポートする専門家。小松さんが取得したのは2級資格。政府が今年6月に策定した「高齢者等終身サポート事業者ガイドライン」に沿って、今後の活動を展開していく。資格取得のきっかけ

について「おひとりさまの増加や家族が遠方に住むケースが増え、身元保証への不安を抱える人が増えていると感じた」と話す小松さん。介護の現場では、家族との折り合いが悪く、保証人欄に名前を記すだけで実質的な支援が得られないケースもあるという。とくに死後の対応は、家族以外の第三者には難しい課題が山積

している。携帯電話やクレジットカードの解約手続き、さらにはお墓の管理に至るまで、対応すべき事柄は多岐にわたるうえ、処理に要する時間は150〜200時間にもおよぶ。小松さんは「遠方に

住む家族にとっても、これだけの時間の確保は大きな負担」と指摘する。今後は地域の社会福祉協議会や地域包括支援センターなどと連携しながら、終活に関するセミナー等を開催していく計画。「不動産の相続登記が義務化されたこともあり、元気なうちから様々な準備をしておくことで、残

された人が困らずに済みます」。現在、1級資格は士業の有資格者等が取得できるが、今後は幅広い人材確保にむけて門戸を広げる動きもある。小松さんは「自分が亡くなることはあまり

考えたくないと思うが、前もって考え準備しておくことで、その先も安心して生活できる。いざというとき困らないよう、家族のあるなしに関わらず、元気なうちから備えておいてほしい」と力を込めた。



合格証書を手にする小松さん



利用者と交流する小松さん